



広 報

いいたて

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>

平成17年

1 JAN
月

495



地域話題を伝えて15年

関根・松塚行政区の情報誌
『ゆーとぴあ17』が200号

昭和63年5月から毎月発行している関根・松塚行政区の情報誌「ゆーとぴあ17」が、平成16年12月1日号で記念すべき200号となりました。

家庭の出来事やゴミ当番など、地区内の身近な話題が分かりやすく書かれている「ゆーとぴあ17」。編集作業は、広報委員（写真上）が手仕事で行なっているとのこと。

同行政区では、200号をまとめた記念誌の発行を予定しています。



「ユートピア17」200号

新春のしあわせわび



飯舘村長
菅野 典雄

新年あけましておめでとございます。
村民の皆様には、「ご家族おそろいで健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は、合併問題で村民の皆様に変な心配をおかけし、申し訳なく思っておりますが、村の将来の方向性が決まったという、歴史に残る年でもありました。
今、日本中が合併問題

で揺れ動いているところですが、飯舘村民の選択は「合併しないで、これから飯舘村で」でありました。右肩下がりで、しかも先がなかなか読めない時代ゆえ、合併するにしろ、しないにしろ厳しい時代を私たちは切り開いていかなければなりません。
村の進路が自立で決まった以上、あらゆる努力を払い自立の道すじを付

けていく覚悟です。早速昨年の11月15日に庁内に「自立対策係」を設置し、準備に取りかからせていただきます。
自立の目標を「ハードからソフトへ」、「行財政改革の断行」、「村民と行政の協働」の3つの柱にしたところです。これから、この3つの柱を中心に、村民の皆様と熱い議論を交わしながら自立計画をつくり、村民一丸となつて自立の道を進んでいくつもりでありますので、ご支援とご協力の程よろしくお願い致します。
今年、きしくも村の第5次総合振興計画、いわゆる「までいライフプラン」がスタートする年でもあります。このプラ

ンの理念は「念入りに」、「手間ひまを惜しまず」、「心を込めて」、「つつましく」でありますから、まさに自立プランそのものと言つて良いでありますよ。
「自立の年」と「までいライフプラン」のスタートが一緒になるといふこと、偶然にしても村の行く末を応援してもらつていふような気がしてなりません。
「飯舘村再生スタートの年」と位置付け、総力をあげて村政に取り組んでまいります。
今年度は、20年来の悲願であった石ボロ坂トンネルが開通します。
農協には、農産物集出荷施設も完成しますの

で、農業振興が一層図られるものと思えます。
きこりも、マイナスイオンの低温サウナと人工温泉の浴場が増築されることで、健康づくりと魅力アップが図られます。
少子化対策として、草野小学校内につくしんぼハウスも開所します。
ミニデイサービスは、今年度中に全行政区で実施されることとなります。
多くの村民の努力と汗のお陰で「飯舘村」の存在が内外に認められるようになってきました。この「飯舘村」の名をさらに活用して、村民の生活向上に結び付けながら、村を飛躍させるため最大の努力と情熱を傾けていくことを、新年に当たりお約束させていただきます。
今年一年、皆様のご家庭に幸せが訪れ、健康で過ごされますよう心よりお祈りいたしまして新年のごあいさつといたします。



飯舘村議会議長
横山 正秀

新年あけましておめでとございます。
皆様には、「ご家族おそろいで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

幸い、飯舘村においては度々の台風襲来にもかかわらず、大きな被害がなく、好天にも恵まれ、農作物は稔り多い年であります。
また、村の今後10年の進路を決める「第5次総合振興計画」も、多くの関係者が参加して策定されました。この計画は、「までいな暮らし」で豊かな社会を築こうとする計画であり、今年から皆様の生活に活かされていくものと期待しております。

勝など、明るい話題の多い年でもありました。
政治的には、市町村合併をめぐる激動の年であり、合併賛成・反対の住民投票とも言われた村長選挙を経て「自立」の道が選択された訳ですが、今後の村政においては、公共料金の負担増、住民税や国保税、介護保険料の増額が予想され、村民にはガマンが強いられる事が懸念されます。
今年、飯舘村の「自立元年」であります。国の危機的な財政、三位一体改革により、財政力の弱い小規模自治体は相当厳しい状況に置かれることは必須のようであり、このような中で村づくりを進めるためには、次の四点が必要であると考えます。

一つ目は、住民の希望するところに財源が回されているか、効率的な行財政執行がなされているかき、住民の目線で判断できるようにするための情報公開であります。
二つ目は、住民と行政の協働であり「かゆいところに手の届く行政」から、「かゆいところは自分で搔く」、自分で出来ることは自分でやることです。行政と住民の役割分担を明確にすることにより、「自立の村づくり」は、住民が行政からの自立となります。

以上のことを基本とし、「自立のために何をすべきか」、村民の生活と幸せを守るため、活発な議会活動をお約束いたします。
今年、村議会議員の改選の年であり、定数を4人減らした14人の議員を選ぶ選挙が行なわれます。村を挙げて、政策について議論がされるものと期待しております。

昨年暮れ、日本漢字能力検定協会は、その年の世相を表す「2004年の漢字」を『災』と発表しました。新潟県中越地震や多くの台風上陸による大きな被災、また、かつては考えられないような子どもたちによる事件等、『災』の多い一年でありました。さらに、国際的にも、イラクをはじめ紛争とテロの絶えない年でありました。

さらに昨年は、飯舘小学校が改築され、新校舎が完成したことや「ふくしま駅伝」での村の部優

一つ目は、住民の希望するところに財源が回されているか、効率的な行財政執行がなされている

二つ目は、住民と行政の協働であり「かゆいところに手の届く行政」から、「かゆいところは自分で搔く」、自分で出来ることは自分でやることです。行政と住民の役割分担を明確にすることにより、「自立の村づくり」は、住民が行政からの自立となります。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を、ご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。